

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第1回上越市立図書館協議会

2 議題等(全件公開)

- (1) 平成29年度図書館の利用状況について（報告）
- (2) 平成29年度図書館の事業実績について（報告）
- (3) 上越市子ども読書活動推進計画（第3次）について（協議）
- (4) その他

3 開催日時

平成30年6月26日（火） 午後3時00分から5時00分まで

4 開催場所

上越市教育プラザ 中会議室

5 傍聴人の数

0人

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：池嶋委員、上原委員、大越委員、小埜委員、河村委員、田中(和)委員、田中(美)委員、丸山委員
- ・ 事務局：社会教育課 内藤高田図書館長、小暮副館長、丸山係長、佐藤係長、石平主任、柴山直江津図書館長、平田副館長、小林主任司書、山本社会教育係長

7 発言の内容（要旨）

<上越市立図書館条例施行規則第20条第2項の規定により小埜委員長が議長となる>

○平成29年度図書館の利用状況について

事務局 : 別紙資料1により概要説明

議 長 : レファレンス件数が、簡易な相談も入れたら件数が増えた（頸城）ということだが、何を以て簡易とするのか。

小暮副館長 : 明確な基準があるわけではない。

大越委員 : 浦川原と頸城の蔵書冊数が5,000冊ほど違うのは予算配分の違いか。

小暮副館長 : もともと（合併前から）、冊数に違いがある。

○平成29年度図書館の事業実績について

- 事務局 : 別紙資料2により概要説明
- 議長 : 平成9年4月に制定された“上越こども読書の日”に、高田・直江津両館でおはなし会が開催されているが、上越市民みなさんが知っているのか。
- 内藤館長 : 広報上越等に催し物のお知らせを掲載しているが、少しPRが足りないのではと思っている。
- 丸山副委員長 : ブックリサイクルであるが、高田はリサイクル数よりも廃棄数の方が圧倒的に多い。直江津はそれでもリサイクル数の方が多い。何故こんなに差が生じるのか。
- 小暮副館長 : 高田の場合は入ってすぐ右手の見やすい位置にリサイクルコーナーがある。直江津は入って少し奥の方にあり存在があまり知られていないということもあるかと思う。高田の場合、よく段ボールごと置いてあったり、年末や年度末の引越し等の際に、状態の悪い本を大量に置いていかれることも多い。
- 議長 : ワゴンに出す以前に分別しているのか。
- 小暮副館長 : ポストに置いていかれるものを職員が確認・選別してワゴンに出しているが、結局は資源ごみになってしまうものが大部分である。常時受付をやめ、年に何回か日を決めて受け付け、その日は職員がその場で受入の可否を判断するようにしたらどうかとの話もあるが、現在実施しているサービスをやめるのは難しい。
- 議長 : 個人的な印象であるが。以前の高田図書館のワゴンには割と多く本が出ており、それを楽しみに来館される方もいた。最近は数冊あるかどうかのようだが。
- 小暮副館長 : “図書館こども祭”ではこども用の、“秋の読書週間”では大人用の本を集めてリサイクルブック市を開催するため、そのための本を保管している部分もある。
- 池嶋委員 : テーマ展示だが、月毎にタイトルを決めるのが非常に大変と思うが誰が決めているのか。また、決めたタイトルに対する展示を多くするのか。
- 小暮副館長 : 正規・非常勤を問わず月毎に担当職員が決定する。決めたテーマに沿

って関連する本を展示することが貸出しの増加につながる。また、テーマ展示とは別に、現在であれば新水族館に関連した“海の生き物”コーナーを設けるなどのミニ展示も行っている。

内藤館長 : 先月も、オーレンプラザで子育てに関する講演会があったのだが、その講師の方の著書や子育てについての関連本なども並べてもらった。このように1か月のテーマ展示のほかにも、その時期に合わせた展示もしている。

池嶋委員 : 情報提供はどのようにしているか。

小暮副館長 : ホームページや図書館だよりに掲載するほか、情報を提供し新聞に掲載してもらったりしている。メディアを上手に使っていきたいと思う。

議 長 : 図書館に関心を持っている人に、例えばスマホに直接情報を流すといったようなことはお考えか。

丸山係長 : どの程度の利用があるかはわからないが、図書館ホームページで、自分で興味のあるテーマを事前に登録しておく、該当の本が図書館に入った場合にメールでお伝えするサービスがある。

大越委員 : テーマ展示というのは高田と直江津でしかやっていないのか。

丸山係長 : 情報提供まではしていないが、頸城、浦川原の各分館でも行っている。高田のように1か月続けるにはそれだけの展示物や蔵書が必要となるので、分館では難しい面があり、ミニ展示の形で行っている。

大越委員 : やっているのであれば、今日の会議資料にも載せて欲しかった。

議 長 : ブックトークであるが、これは小学校から依頼があって出かけるのか。また、例年資料にあるような件数か。

石平主任 : 年度当初に図書館関係者が集まる研修会があり、そこでブックトークのPRをしている。それを基に学校ごとに依頼を受け、私たちが出向くという形である。件数は例年同じくらいである。

議 長 : 工夫して子供達が読書に関心を持つ機会をもっと増やして欲しい。また、地域の中でも協力くださる方がおられるのであれば、そうした方にも協力を求めている。

○上越市子ども読書活動推進計画（第3次）について

- 事務局 : 資料3、4、5により概要説明
- 議長 : 計画はどういった形で策定されるのか。
- 内藤館長 : 委員のみなさんからいただいた意見を各課へ確認しつつ整理した後、教育委員会での協議、決裁となる。その後、パブリックコメントを行い市民のみなさんから意見をいただく。今年度中の来年3月末までに策定したい。8月末くらいまでに素案を確定できればと考えている。
- 議長 : 4年間の推進計画だから4年後に実りが出てくることを期待するわけである。
- 内藤館長 : 計画の最終ページに目標数値を入れていきたい。
- 議長 : 第2次計画とどこが違うのか。今までのものを踏まえて進化するので、全部が変わるわけではないが、その中でも第3次計画の目玉となるものがあればと思う。第3次の特徴があれば十分市民に説明できる。
- 小暮副館長 : 第2次計画を基にした改訂である。ブックスタート事業が終了したが、それに代わって母子手帳交付時に図書館利用案内や読み聞かせの本を記録する読書記録帳の引換券を配付しており、そういったことを盛り込んでいる。
- 内藤館長 : 平成28年度から利用者拡大事業として、イベント会場に出かけていくなどしているが、今後も続けたいと考えている。
- 大越委員 : 司書の方には大変かと思うが、もう一步踏み込んで赤ちゃんにどう読み聞かせしたらいいのかを妊婦さんに話してあげれば引き換えの数も増えるのではないかな。
- 内藤館長 : 元保育士や幼稚園教諭のボランティアで、赤ちゃんへの読み聞かせを行っている団体もあるので、対象を広げるなど、できるところからやっていきたい。
- 大越委員 : 図書館だけでなく、こども課など他の部署とも連携・協力してやっていかないと難しいと思う。
- 議長 : 組織をマネジメントする人が必要であるし、人材をつくっていく必要もある。こうしたことが第3次計画の実現に重要である。
- 丸山副委員長 : 国でもなく県でもなく、上越市の読書計画であるので、策定にあたっては上越市の特徴・特色をもっと出してもいいのではないかな。例えば

未明童話であるとか。もちろん発達段階で違うのだが、地域土壌といったニュアンスを出せればいいのでは。

議長 : この地域の子供たちがどういった読書をしていくのか、逆に上越市はどういうところなのか、何を目指していくのか、地域ぐるみで読書を支えていくと考えた時に、今回の第3次計画に向けて上越市が連携を大事にし、学校図書館を含め本気になって取り組んでいく。これが地域に根差した図書館の運営である、といったような姿勢もある。

内藤館長 : この読書計画の上位計画に上越市教育プランがあり、その上位に上越市第6次総合計画がある。教育プランの中では読書活動も重要視されており、これら計画ともうまくリンクさせていかなければならない。

議長 : 将来に危機感を持っている。高校になると読書率が下がる。このまま少子高齢化が進み人口が減っていった時に子供たちが文字に触れない本を読まないとなれば将来の社会を担えないのではないのか、上越市が真剣かどうか問われている。

池嶋委員 : 物事をよく読んで理解して自分なりに考えをまとめ発表する、正に“これから必要となる力”を会得するのに読書が有効である。当校（高田北城高校）ではほんの10分ではあるが朝読書を実践している。自分の好きな本ではなく、先生方が課題を設けて300冊ほど購入した本を生徒たちが読んで題材にしながらいきながら、3年生ではそれを発表していくといった力をつける読書である。この地は四季がはっきりしていて、人間としての感受性が非常に高く、他の地域にはない人としての豊かさを育む地域であると感じている。それが故にここからの発信が必要であるし、当計画案も一本筋を入れるだけでよりすばらしいものになると思う。

議長 : 今言われた「探求・発信・目的を持った読書」これがキーワードである。ただ単に本を読むだけでなく、こうしたストーリーがあると良い。

池嶋委員 : 課題となっている“学生の読書離れ”といったところを変えることによって地域も変わっていくのではないか。スマホで読む文章は映像としか捉えられない。本は前頭葉を使って考えるので、全く違う。

大越委員 : 読書が大事な前は以前から言われていることだが、(市)職員の認識度が低い。図書館だけで考えていてもなかなか前に進まない。例えば、

社会教育課で行う「謙信キッズ」との連携もあるだろうし、もっと認識度を上げるとともに他の部署との連携が大事なのではないか。例えば長野県茅野市は「読書で子供を育てる」をキャッチフレーズに、市長・教育長をトップに市全体が動いており、全市がこの意識を共有している。同じ絵本をみても小学生と高校生では見方が違う。高校生になると人権問題まで考えるようになり、考察力・探究力が出てくる。それほど読書は大切である。まずは市全体に共通認識を持たせることが大事である。

議 長 : 茅野市の視察も検討いただきたいと思う。

田中（和）委員

: 実は、生徒も職員も読書が大事なのは8割・9割方分かっている。では何故やらないのか。限られた時間の中で読書するより別のことをやるといった意識が生徒だけでなく、教師・大人の中にもある。例えば学校であれば、校長が相当のリーダーシップを持って読書活動を中心とした学校経営をする位の気構えがないと難しい。

大越委員 : 茅野市では学校として文部科学大臣表彰を受けている。その校長が図書館運営を学校の運営に活かすという、正に今言われたことを実践された。

田中（和）委員

: 当校（潮陵中学校）は朝読書はやっていない。学校が求められているのは数値的なもの（学力）が大きく、朝は基礎学習に時間を費やしている。

議 長 : 委員の皆さんから様々な意見をいただくことができたかと思う。今日出された意見を受けて事務局で整理して欲しい。本計画は、形だけではなく成果がしっかりと読み取れる必要があると思う。委員のみなさんもお意見等あれば7月3日までに事務局へお出しいただきたい。

○その他

事務局より今後の行事日程の事務連絡あり

8 問合せ先

教育委員会社会教育課高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料もあわせて参照ください。

※資料3、4については検討途上のものであるため、掲載は控えることとします。